令和３年度 大刀洗町自分ごと化会議 答申

「ごみを減らすために、わたしにできること」

令和４年　５月　１３日

大刀洗町自分ごと化会議

目次

１．答申にあたって …… 1

２．自分ごと化会議概要 …… 2

３．「ごみを減らすために、わたしたちにできること」提案書 …… 4

４．提案の活用と今後に向けて …… 14

５．付録：アンケート結果 …… 15

１．答申にあたって

大刀洗町長　中山 哲志　様

　大刀洗町自分ごと化会議は、無作為に選ばれた町民同士が、町の課題について話し合う会議で、今期で８年目の取り組みです。
　私たちは、令和３年１０月から令和４年２月まで、住民協議会委員として、「ごみを減らすために、わたしにできること」をテーマに、大刀洗町におけるごみ問題の解決方法を話し合いました。そこで生まれた提案をまとめ、この度「提案書」を作成しましたので、諮問への答申といたします。

　「ごみ」は、私たちが暮らす上で必ず生まれるもので、私たちの生活に直接関わりのある身近なものですが、普段の生活の中では、ごみについて考えたり、語ったりする機会は少ないです。

　そんな中、自分ごと化会議に参加し、ごみの収集や処分の流れ、行政が行っている削減の取り組みを学びました。年々増加傾向にあるごみの量は、昨年度は町全体で 3800ｔにも及んでいること、そして、その処理に約 2.9 億円の費用がかかっていることを知り、非常に大量で、高額なことに驚きました。

　私たち委員も「自分のお金で買ったものだから」、「ごみ袋の購入や税金でお金を払っているのだから」と、深く考えずに物を捨てることもありました。しかし、この大量のごみを生み出しているのは私たちであり、大刀洗町のごみ問題は、町民一人ひとりにとって『他人ごと』ではなく『自分ごと』なのです。
　会議では、町全体のごみを減らすために、まず自分が出すごみをどうすれば減らせるのか。そして、一人では無理なことも、地域で集まって取り組むことで実現できるのではないか…などを話し合いました。

　今まではあまり関心のなかった「ごみ問題」という、社会全体の問題を自分ごとで捉えることで、次第に、私たちの発言も、「（行政や周りの人に）もっとこうしてほしい」ではなく「変わるため、変えるために、私に何ができるか」というものに変わってきました。こうして「自分ごと化」して考えたごみ問題に対する改善策を、提案書にまとめました。

　自分ごと化会議のように、年齢、性別、職業、…といった様々な背景や立場を持つ町民同士が、生活の中で感じることや、そこから生まれる意見を、共感を持って話し合う。それが、まちのことを「自分ごと化」することにつながります。これは、ごみ問題に限らず、他のどんなことにおいても大刀洗町をより良いまちにしていくために非常に大切なことです。まちや社会で起きている問題を「自分ごと化」して考え、皆で協力して解決に取り組めば、その成果は私たち自身や子どもたちの生活に豊かさを与えるものになって返ってきます。

　私たち町民と行政が一緒にまちのことを「自分ごと化」して考えるこのような場が、この先も続いてほしいと願っています。

２０２２年　５月　１３日
大刀洗町自分ごと化会議 委員一同

２．自分ごと化会議概要

無作為抽出によって集まった町民同士で、全４回に渡り「ごみを減らすために、わたしにできること」をテーマに話し合いました。

会議参加者

委員	町民 24 名 （無作為に選ばれた町民 478 名のうち、応募した 24 名。応募率 5.0%）
コーディネーター	・荒井　英明　氏（構想日本　特別研究員／神奈川県工業内陸団地　事務局長）
ナビゲーター	協議にあたっての論点の提示や話題を提供する役割 ・櫛田　豊久　氏（アミタホールディングス　経営戦略補佐　ＫＯＵプロジェクトマネージャー） ・廣木　俊二　氏（ふれあいセンター　センター長） ・吉川　昇　氏（ふれあいセンターＭＥＧＵＲＵ　ＳＴＡＴＩＯＮボランティアスタッフ）

各回概要

日時	内容
第１回　2021 年 10 月 30 日（土）	▼自分ごと化会議の概要説明 ・「自分ごと化会議」とは（コーディネーター） ・全体の流れと進め方の説明（コーディネーター） ▼テーマ説明 ・テーマ説明～ごみを減らすために、わたしにできること～（総務課） ・大刀洗町のごみ事情（住民課） ▼全体協議 ・自己紹介 ・テーマについて協議　など
第２回　2021 年 12 月 19 日（日）	▼全体説明と話題提供 ・なぜごみを減らさなければならないのか？（住民課） ・３Ｒ＋Ｃに関する話題提供「ゴミの減量にむけた地域・民間の取組み」（ナビゲーター　櫛田氏） ▼グループワーク ・一日 50ｇのごみを減らすなら、何を減らす？ ・あなたにとって「本当のごみ」って何ですか？ ・「本当のごみ」以外をごみにしないために、自分や地域には何ができる？ ▼「改善提案シート」の記入　など

第３回　2022 年１月 16 日（日）	▼全体説明と話題提供 ・ごみ減量の社会実験（住民課） ・ふれあいセンターでの社会実験「MEGURU STATION」（メグルステーション）の事例紹介（ナビゲーター　廣木氏） ▼グループワーク ・私と地域にできる「３Ｒ」とは？ ・「ごみの地産地消」って何だろう？ ・「＋Ｃ」のためにできることは何だろう？ ▼「改善提案シート」の記入　など
第４回　2022 年２月 19 日（土）	▼答申書（案）の説明とこれまでの会議の振り返り ▼ナビゲーターより話題提供（吉川氏） ・社会実験「MEGURU STATION」に関わった動機・関わろうと思ったきっかけ ・事前のイメージと、実際に関わって得た感触・感想（ナビゲーター　吉川氏） ▼グループワーク ・これまでを振り返りながら「３Ｒ＋Ｃ」を考えよう ・あなたはどんなインセンティブがあったら３Ｒ＋Ｃに参加する？ ・インセンティブを＋Ｃの中でつくるには？ ・自分ごと化して得られるメリットは何だろう？ ・答申書についての意見交換 ▼全体会 ・自分ごと化会議を通しての気づきや感想などの共有 ▼「意見提出シート」の記入　など

３．「ごみを減らすために、わたしたちにできること」提案書

「ごみを減らすために、わたしたちにできること」
提案書

この提案は、令和３年度に実施した全４回の「大刀洗町自分ごと化会議」の協議を通して、私たち委員が考えた、大刀洗町のごみ問題に関する改善提案をまとめたものです。

自分ごと化会議では、「ごみを減らすために、わたしにできること」をテーマに話し合いました。まずは町から、まちのごみに関する現状と、町が掲げるごみ問題の解決に取り組むための基礎となる考え方「３Ｒ＋Ｃ」の説明を受けました。

- リデュース（Ｒｅｄｕｃｅ）：ごみを減らす
- リユース（Ｒｅｕｓｅ）：繰り返し使う
- リサイクル（Ｒｅｃｙｃｌｅ）：再生利用する
- コミュニティ（Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ）：つながる（互助・共助）

「３Ｒ」は、ごみ問題の解決するための事柄として、広く一般的に使われている言葉ですが、「＋Ｃ」は、大刀洗町の独自の考え方で、「ごみ問題を、地域のコミュニティを使って解決に導く」というものです。一人ひとりの「３Ｒ」活動を、コミュニティによって大きな成果につなげることを目指しています。

この説明を受けた私たちは、「＋Ｃ」によって「３Ｒ」を進めるだけでなく、「３Ｒ」活動によって、「＋Ｃ」を活性化する相乗効果も期待できると考え、「＋C」に主眼を置き、一人ひとりとその家族という小さいものから、地区、行政を含んだ町全体といった大きく広げたものまで、広くコミュニティの単位を考えながら、ごみ問題に関する４つの提案をつくりました。

提案	1. 「自分にとってはごみでも、誰かにとって宝となるもの」を巡らせることのできる「ごみの地産地消」の輪をつくる。
提案	2. 「本当のごみ」以外を、ごみではなく「資源」にするために、コミュニティで一丸となって分別や資源回収に取り組む。その活動を通して資源だけでなく人も取り残さないまちをつくる。
提案	3. ごみについて話し合ったり、ごみに関する情報を発信・共有していくことで、町全体にごみに関する意識を浸透させ、育てていく。
提案	4. 必ずごみは出る。一人ひとりが３Ｒに取り組みながら、コミュニティに広げ、そのコミュニティを大きく町全体に広げていくことで、３Ｒ＋Ｃを大きな成果につなげていく。

次のページより、私たち町民、地域、行政のそれぞれにできることに分けて記載します。

提案

1．「自分にとってはごみでも、誰かにとって宝となるもの」を巡らせることのできる「ごみの地産地消」の輪をつくる。

「自分には不要なもの＝ごみ」という価値観・考え方を皆が変えることで、ごみを減らすことにつながる。
自分にとってはごみでも、誰かにとっては価値のあるものかも知れない。自分に不要になったものを、必要としている誰かに届け、また、誰かのもとでは不要になった、自分にとって価値のあるものを受け取る。そういった、「自分にとってはごみでも、誰かにとって宝となるもの」を巡らせる活動をすることで、「ごみの地産地消」の輪をつくりたい。

要らなくなったものを譲り合う「リサイクルマーケット」や、古本を持ち寄って自由に持ち出しできる「フリー図書館」、地域の住民で、使えなくなってしまったものを直したり、別の何かに作り替える工房などをつくる。そして、要らなくなった・使えなくなったものがあることを町全体に知らせ、それを必要としている人の目に留まるような仕組みをつくることで、皆の「ごみの地産地消」を互いに助けあいながら、３Ｒ活動を進めるためのコミュニティをつくることができる。

そのための場として、本郷で社会実験を行っている MEGURU STATION を活用すれば、生ごみも持ち寄って処理することもできる。また、現実どこかに集まるだけではなく、フリマアプリのように、ネットを活用することで、時間や場所を気にせず集えるコミュニティをつくることも可能だ。

「提案１」の実現に向けて、それぞれにできること

私たち町民	① 使わなくなったものがあれば、まず身近な人から声かけをし、誰か必要としていないか聞くようにする。 ② 地域で行う資源や不要品の回収作業に、積極的に参加する。 ③ 不要品・不用品を、リサイクルマーケットに持ち寄る。 ④ リサイクルマーケットやショップへ提供できるよう、ものを大切に使う。 ⑤ まず自分が地域や行政の活動に参加する。それを家族に伝え、一緒に取り組む。そして家族から地域へと少しずつ関りを持つ人を増やしていく。
地域	① 地域で不要品回収を行う。 ② リサイクルマーケット、フリー図書館、修理工房を開く。 ③ 不要品から工作するデザイン教室などのサービス活動を始める。 ④ 集まる場所を提供してもらえるよう、地域の人々や行政に呼びかける。 ⑤ 不要になったもの、修理すればまだ使えるものの写真や事例を、地域の掲示板で紹介し、地域の人々や町の中に広める。
行政	① マーケットなどを主催して、地域の活動を促す。 ② 地域の活動を手助けするために、活動しやすい、気軽に見に行ける場所を提供する。 ③ 大刀洗版のリサイクルマーケットの WEB サービス・アプリをつくる。 ④ MEGURU STATION の設置個所を増やし、皆が歩いて行ける場所につくる。 ⑤ MEGURU STATION を小学校に設置し、児童のボランティアスタッフ体験によって子どもの学びにつなげる。

民間企業、NPO 等	① 生ごみコンポストや、修理工房などの製作に協力する。

«その他、提案を補強する意見»

▼今だけでなく将来の３Ｒ＋Ｃを考える

- 子どもたちと一緒に、子どもたちの目に映る場所で取り組むことで、将来の３Ｒ＋Ｃにつなげたい。
- 子どもたちのリサイクル意識が、その子たちが大人になったときに非常に大事になる。
- 小学校で生ごみからつくった液肥を使って、花や野菜を育てる体験をしたり、メタンガスを暖房に使用するなどして、子どもたちが学び、考える機会を増やしていきたい。

▼直せば使えるものが捨てられている

- 少し修理すれば使える家電製品などが、調子が悪くなったらすぐに捨てられている。
- 段ボールから子ども用のおもちゃをつくる、廃材から家具をつくるなども有効だ。

▼子育てに関するものは、時期が来たら不要になるが、まだ使えるものが多い

- 子どもの学校の体操服やランドセルなど、時期が来たら使わなくなってしまうものがある。きれいなまま捨てるのはもったいない。
- 他所でいらなくなったものでも、自分にとっては必要なものになったりするし、その逆もある。赤ちゃん用品・ベッドなどがいい例。広く声をかければ「誰かの不要なもの」を「必要なもの」にできる。
- 孫のベビーベッドを親戚にリクエストしたら、子どもに買ってあげたベッドが戻ってきた。こうしたサイクルを地域コミュニティで回していく事が「＋Ｃ」だと思う。
- 不要になった子どものおもちゃなど、ゆずり合える場所があると良い。

▼生ごみも地産地消できる

- 生ごみからできた液肥を使って野菜をつくり、できた野菜を家庭で消費すること、これは地産地消と言える。
販売用の農産物には、販売する上での規格上、生ごみからできた液肥を利用することは難しい。しかし、販売目的でない、子どもの野菜づくり体験教育などで活用することはできる。

提案

2．「本当のごみ」以外を、ごみではなく「資源」にするために、コミュニティで一丸となって分別や資源回収に取り組む。その活動を通して資源だけでなく人も取り残さないまちをつくる。

私たちが生活の中でごみとして捨てているものの中には、「本当のごみ」以外のものが含まれている。

地産地消を通して宝となるものや、広く社会で捉えれば資源となるリサイクルできるものは、本当は「ごみ」ではなく「資源」だ。ごみと資源の分別を徹底することで、ごみの量を減らすことができる。暮らしの中で、分別を徹底することが重要だ。

しかし、分別せずにごみとして捨てている人の中には、資源の収集の日・時間帯が生活に合わずに資源として集積所に出せない人もいる。収集場所に自ら持ち込むのが困難な高齢者もいる。そのため、地産地消の場をつくっても、育児や仕事の都合で、なかなか参加できない方もいるだろう。

地産地消の場や、集積所などにコミュニティをつくり、皆を呼び込んで参加してもらうことも大切だが、コミュニティ側から皆に近づいていき、気軽にごみを出せる環境をつくることも重要だ。皆が生活の中で必ず行く場所に集積所を設置するなどのハード面と、時間帯を朝から日中に限らず夜間も解放したり、料理教室を開くなど、ソフト面からも両面で近づいていく。そうして「何かのついでに寄れる」ような気軽な雰囲気にしていくことで、現状では参加できない方との交流・コミュニティ参加を生むことができ、地域での町民同士の声掛けや見守りにもつながる。

そうして、ごみ問題を解決するためのコミュニティをつくると同時に、資源だけでなく人も取り残さないまちづくりを進めていきたい。

「提案２」の実現に向けて、それぞれにできること

私たち町民	① 面倒だと思っても、分別をする。 ② 自分だけでなく、家族と協力しあい家庭での分別を徹底する。 ③ 集積所で、分別のサポートをする。 ④ 学校の協力を得ながら、資源回収に子どもたちと一緒に取り組む。（子どもにリサイクルやごみに対する意識を持ってもらうことにつなげる。） ⑤ 地域の民生委員等との会話の機会を持ち、自ら地域の現状を把握しに行く。
地域	① 近所で集まり、ごみ回収に取り組み、小さな交流の場を使って広げて行く。 ② 自分でごみを出すのが難しい高齢者のお宅に寄り、ごみを代わりに出し、安否確認や他の困りごとの確認につなげる。
行政	① 地域で行う資源回収を支援する。 ② 分別についての知識情報を、紙だけでなく HP や SNS などで発信する。 ③ 小学校等で定期的に、ペットボトルや缶などの資源回収を子どもたちに教える取り組みをする。 ④ 生ごみも液肥などへ資源化できるので、生ごみと可燃ごみの袋を分けてつくる。 ⑤ 年に１～２回、町の資源回収日をつくり、「家族そろって散歩デー」などと銘打って、家族で資源を持ち寄って楽しく資源化できる事業を設ける。 ⑥ ごみを処理する機材（MEGURU STATION の設備など）を車に載せた、ごみ処理車

MEGURU CAR をつくって、自分でごみを出しに行けない方の資源回収をサポートする。

«その他、提案を補強する意見»

▼「コミュニティ」とは

- 家族もコミュニティ、100 世帯が集まってもコミュニティであり、町全体もコミュニティだ。

▼家庭での分別

- 家庭で多く出るごみは何かと皆で考えたところ、最も多く出るのはペットボトルだという話になった。ペットボトルごみを減らす取り組みができれば効果は大きい。また、ペットボトル専用の集積をするなど、分別意欲を高めることができれば資源化できる量が増えると思う。
- 数人で暮らしているとペットボトルごみが大量になる。すべて一人で分別するのは大変だが、家族で協力しあうことで、家族のだれかの負担とならないよう、資源に分別できる。

▼「本当のごみ」とは

- 分別を面倒だと思ったり、本当のごみとは何だろうかと考えるのが面倒だと思ってしまう気持ちが、本当のごみだと思う。

▼気軽に行ける場所にするために

- ふれあいセンターの MEGURU STATION の事例紹介の中で、本郷の住民からも「遠いので行きづらい」という意見があったと聞いた。もっと身近な場所にあれば気軽に集まれる。
- わざわざ行かずに、必ず行く場所。例えば保育所や学童に MEGURU STATION があれば、もっと気軽になる。また、親が送り迎えで行きやすく、集まりやすい。子どもたちもごみについて学ぶ機会にもなる。
- ごみ出しを「ついで」にできる、気軽に行ける場所になるとコミュニティ形成につながる。体操教室、料理教室などの「ついで」にごみを集められれば人が集まる。
- 今の MEGURU STATION のように、空いている時間が 8:30～17:00 だと、日中仕事に出ている人は集まれない。17:00 以降に時間をずらすなど、参加できる時間にすることで、コミュニティに参加する人を増やせる。

提案

３．コミュニティを通じて、ごみについて話し合い、情報を発信・共有していくことで、町全体にごみに関する意識を浸透させ、育てていく。

ごみに関する知識を持つことが、３Ｒを進める上で重要だ。
正しい知識を持ち、それを共有していくことで、適切な捨て方や分別が進み、減量やリサイクルにつながる。行政からの情報発信を頼り、待つだけでなく、自らが情報を集め、またその情報を発信していくことで、また違う誰かに興味を持たせ、知識が浸透していく。

自らが得た知識を、最初は家族、友人、職場などへ広め、だんだん広げて行き、地域のコミュニティで情報共有する。年齢・性別・職業が違う相手や、町民と行政など、立場が違うと見る観点も違う。自分ごと化会議のような場を設け様々な人々と意見交換することで、それぞれの立場からみた観点での意見や考え方を知ることができる。

別の地域や別のコミュニティとも意見交換をしていけば、その輪は少しずつ広がり、いつか３Ｒ＋Ｃを町全体に浸透させることができる。そうすれば、一人ひとりが互いにその意識を育て合うことができる環境になり、３Ｒの推進と、コミュニティの活性化につながっていくことが期待できる。

「提案３」の実現に向けて、それぞれにできること

私たち町民	① ごみにしないことが大事だが、そのためにはまず知識が必要。ごみの分別、処分方法などの知識を持つ。 ② 周囲に情報を発信していく。ごみについての知識を、まだ知らない人に教える。 ③ SNS のグループなどを活用して情報交換する。 ④ 家族や地域の人、友人達とごみについて話す機会をつくる。 ⑤ 自ら発信するだけでなく、周囲の人の意見を聞く。 ⑥ ごみに関して迷うことがあったら、調べたり周囲の人や役場に聞く。
地域	① 地域の交流の場（集会など）で、ごみについて話し合う機会を設ける。 ② 集会の場での交流だけでなく、回覧版や地域の掲示板を使って各家庭へ周知する。 ③ 他の地域の資源や不要品回収について、常に情報を収集するよう努める。 ④ 他の地域での活動の紹介をする。
行政	① ごみに関して情報を発信する機会を増やし、多くの情報を広める。 ② ごみについて興味を持ってもらえるような広報の手段・内容を検討する。 ③ ごみを減らしていくためには、子どものうちからの意識づけが重要なので、学校等で学ぶ機会をつくり、子ども達から家庭で話す機会をつくる。 ④ ごみに関する町内の取り組み、全国での取り組みを広報で紹介する。 ⑤ ドリーム祭りなど、町全体のイベントを情報発信に利用する。 ⑥ ３Ｒを進めていけば、どれだけの量を減らすことができるのか見える化し、町民の意欲につなげる。 ⑦ ホームページで分別の知識が得られるよう、より情報発信を工夫する。 ⑧ すでにあるホームページの記事についても、より多くの人に知ってもらえるよう広報する。 ⑨ ごみを出しに来てもらう・分別をしてもらうための工夫だけでなく、ごみを収集する方法も工

夫し、町内外へのアピールにつなげる。（例：バイオマス燃料を使用したごみ収集カーを使い、大刀洗町がごみ問題に取り組んでいる事をアピールする）

«その他、提案を補強する意見»

▼ごみ問題を意識している人が少ない

- 自分ごと化会議に参加してから、日常生活の中で、ごみについて無関心な人は多いのだなと感じる。
- ごみの減量について考える人々がいる一方で、近所の堤防道にはレジ袋に入ったごみが投げ捨てられているのを見かける。改めて啓発の必要性を感じる。

▼ごみに関する誤った知識・行動と、そこから起こっていること

- イオンの回収ボックスに入れちゃいけないものを捨てている主婦がいる。
- 自動販売機の回収ボックスも入れちゃいけないものを入れるので、台数が減っている。コンビニのごみ入れも減っている。

▼行政の情報発信に関すること

- 町外での大刀洗町の知名度が上がるよう、発信力を大にしてほしい。
- 大刀洗町のホームページに、ごみの分別方法が 50 音順で載っていて便利だが、それを知らない人が多い。

▼多くの人がふれあい、町のこと・地域のことを知ってもらえるコミュニティにしたい

- 新たな住民や外国人に、大刀洗町がどんなまちで、どんな人たちが住んでいるのかを知ってもらえるようなコミュニティをつくりたい。子どもを連れてきて遊ばせられるような場所にできれば、「＋Ｃ」が進んでいくと思う。
- 子どもたちと地域住民がふれあえる場をつくりたい。

提案

４． 必ずごみは出る。一人ひとりが３Ｒに取り組みながら、コミュニティに広げ、そのコミュニティを大きく町全体に広げていくことで、３Ｒ＋Ｃを大きな成果につなげていく。

私たちはごみを出さずに生活することはできない。しかし、ゼロにすることはできなくても、日々の生活を少しだけ変えることで、減らすことはできる。

最初は小さなことであっても、始めることが大切だ。まずは自分が少しずつごみ減量に取り組んでみる。その小さな取り組みをする人が増えれば、次第に大きな成果を生み出すことができる。

たとえ一人ひとり違う場所で、それぞれが別々に取り組んでいたとしても、その一人が町に増えていけば、それもまたひとつの「ごみ減量に取り組む仲間」というコミュニティであり、３Ｒ＋Ｃの一つの形と言えるのではないだろうか。

「提案４」の実現に向けて、それぞれにできること

私たち町民	▼量を減らす ① 生ごみコンポストを利用する。もし捨てるときは水を切る。 ② 日常的に使うものの使用量を減らす。（例：ティッシュペーパーなど） ▼不要なものは買わない・選んで買う ③ 無駄な買い物をしない。 ④ 袋や包装などを受け取らない。 ⑤ 使い捨てではなく、詰め替えや繰り返し使えるものを購入する。 ⑥ 購入したものは、使い切ってから捨てる。また、安いものだからとすぐに使い捨てず、長く使う。 ⑦ 食材は、食品ロスを生まないよう、なるべく食べきれるよう購入する。また、生ごみとして捨てがちだが、食べて消費できるものは食べきるようにする。（例：大根の皮、桃の皮など）
行政	① 町の広報紙や学校からの連絡など、町や学校の印刷物のデジタル化を進め、紙を減らす。 ② 住民がコミュニティに参加して活動することにインセンティブを持たせられる施策を立て、住民がごみ減量に取り組むきっかけをつくる。 ③ 分別ポイントを発行し、分別して集積所に持っていった人にポイントをつける。

«その他、提案を補強する意見»

▼一人ひとりがすぐに取り組めること

- 自分が出すごみを減らすためには、本当に必要なものを買うようにし、不要なものは買わない。こうした意識を自分が持ち、広げて行けば町全体のごみを減らせるのだと思う。
- 生ごみの水切りに、雑がみを活用できることを知った。今までは両方とも燃えるごみに出していたが、こうした小さな活用を広げて行けば、ごみの量を減らすことができる。
- コロナ禍で食品の持ち帰り購入の機会が増えているので、それにあわせて容器のプラスチックが増えている。何か再利用できる方法を考えたい。

▼どんなメリット・インセンティブがあればごみ減量に取り組めるか

- 無料で、いつでもごみを出せる場所が近くにあるだけでも大きなメリットだ。
- ごみを集積所に持っていったとき、ごみ袋と引換えられるとメリットになる。
- 地域のごみ関連の活動に参加すると、代わりに消防団活動を免除するというのも、人によってはメリットだと受け止めるかも知れない。

その他の個別の意見

- リサイクルに使うエネルギーが、そのために地球環境を悪化させるようでは本末転倒。リサイクルの方法、コスト、地球負荷も含めて考えるべき。
- 子どもへの教育が必要だという意見が会議の中で多く出ていたが、ごみの分別に対して苦言を提するのも、ポイ捨てをするのも大人が多いことに気づいた。大人に対しても、ごみに対する意識を変えていくことは大事。
- 近所付き合いが少なくなってきた今の時代に、地域でリサイクルに取り組んでくれることは嬉しい。
- 資源ごみの回収方法や今の制度の問題点や継続性を、住民が考え、選択する機会が欲しい。そのためにも行政には、MEGURU STATION の実験の結果、コスト、トータル的なメリットをしっかりと発信して欲しい。

４．提案の活用と今後に向けて

自分ごと化会議は、私たちが大刀洗町のことを改めて考えるきっかけとなりました。また、行政がどのような取り組みを行っているのかを知ることができ、また、会議の中で進行をしてくれた職員の方ともお話できたことで、行政のことをより身近に感じることができました。このような場を与えてくれた大刀洗町役場の皆さまに、敬意と感謝を申し上げます。

自分ごと化会議が１０月に始まり、年が明けて１月に第３回を迎えたとき、ごみの減量化とごみ出しを通じた地域住民の交流の場として、「MEGURU STATION」の社会実験を始めたと説明を受けました。これは、自分ごと化会議で私たちが出した意見をもとに、町が事例を探し、私たちが出した意見と「３Ｒ＋Ｃ」の考えに合うものが見つかったことがきっかけとなり、社会実験に至ったものです。

私たちの会議の中での提案を、こうして行政が迅速に実現に向けての行動をおこしていただいたこと、大変うれしく感じています。ぜひ、この１つに終わらず、今後もこの提案書に記載した内容を実現するために、私たち町民と共に取り組んで行って欲しいと願っています。

また、この提案書の中には、大刀洗町の MEGURU STATION を改善する参考となる意見も含まれています。社会実験の結果や、もし MEGURU STATION を本格導入することとなったときに、ぜひお役立ていただきたいと思います。

今後も行政の活動を見守りつつ、ごみ問題に限らず、このまちのことへ積極的に関わりを持ち続け、「わたしにできること」を考えながら、私たち自身も行動してまいります。

５．付録：アンケート結果

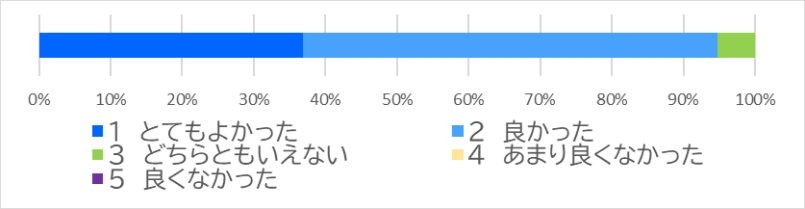
大刀洗町自分ごと化会議 第１回アンケート結果

2021 年10月 30 日実施分

回答結果 ： 参加者 21 人 回答者 20 人(回答率 95%)

1. 第1回自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。《回答 19 件》

回答	件数	割合
1 とてもよかった	7	(37%)
2 良かった	11	(58%)
3 どちらともいえない	1	(5%)
4 あまり良くなかった	0	(0%)
5 良くなかった	0	(0%)
合計	19 件	



2. 自分ごと化会議に参加しようと思った理由は何ですか。《回答 19 件》

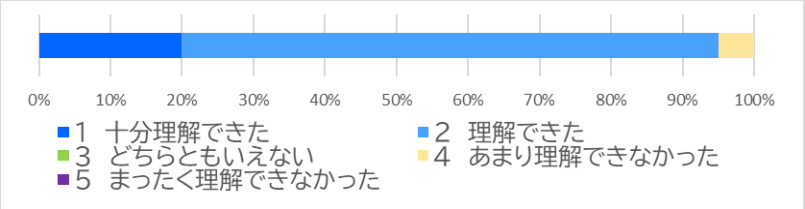
- 数年前にも役場からお便りが来ました。その時は大刀洗に住んで間もなくて「大刀洗のこと知らないし…」と思い、返送すらしませんでした。
  今年また届いて、「大刀洗に住んで 5 年経ったけれど、よく知らないなあ…」と思い、良い機会だと思い参加しようと思いました。
  まだ大刀洗に住み続けたいので、自分たちがより住みやすい町となるよう頑張りたいです。
- 今まで行政と関わる機会が少なかったので、次世代のために 何か自分にできることがあればと思い参加しようと思いました。
- 大刀洗町になじめるようになるため。
- たまたま選ばれたのでいい機会だと思った。
- 大刀洗町の役に立てれば…と思っています。
- 大刀洗町の現状を知りたくて！
- 通知書が届いて関心が少しあったから。
- 一度体験してみたかった。
- ごみ問題は昔からあり今後も続くことで、毎日関わることなので興味があった。
- ごみの分別や捨て方について疑問に思うことや改善してほしいことがあったので参加しようと決めました。
- 自分が住む大刀洗町の事をあまり考えた事がなく、考える良い機会と思ったから。
- 大刀洗町に引っ越してきて、地域との関わりがなかったので、これを機会に大刀洗町を知って関わりを持ちたいと思ったからです。
- 少しでも大刀洗町は良い町になる様話し合いに参加し、みなさんの意見を聞きたい。
- 大刀洗町で生活しているが、何気なくという毎日。自然の多さ、子育て支援に感謝する日々。何か私にできることがあればという思いと、いろんな方の意見を聞きたいと思ったため参加しました。

- ハガキが来て、興味があったから。
- 今まで、ごみの事など考えた事がなかったので。
- どんな会議をしているか知りたかった。
- 町の事を知っておきたいと思った。
- 町がどのような方向性で、何をやろうとしているのか等を知りたかったし、そこに参加したかったから。

3. 町から「大刀洗町のごみ事情」に関する説明がありました。このことについてお答えください。

(1)町からの説明内容は理解できましたか。《回答 20 件》

回答	件数	割合
1 十分理解できた	4	(20%)
2 理解できた	15	(75%)
3 どちらともいえない	0	(0%)
4 あまり理解できなかった	1	(5%)
5 まったく理解できなかった	0	(0%)
合計	20 件	

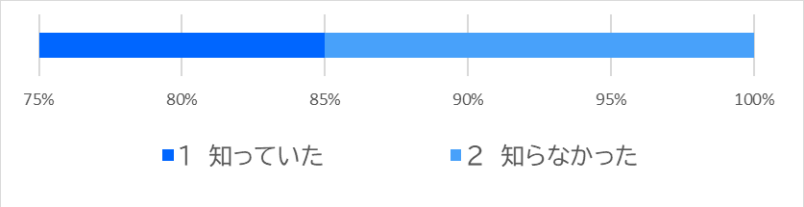


(2)その理由や、ご意見があればご自由に記入してください。《回答 7 件》

- サンポートの資料が理解に役立った。
- 個々の意識を高めることが大切。なぜ、ごみを減らさねばならないか。
- ごみ処理費用について、分かりやすかった。
  資源ごみがどのようにリサイクルされ、それにかかる費用が知りたいです。
- なぜ専用のごみ袋が必要なのか、ごみ袋代として支払っているお金は何に使われているのかを知ることができたので良かったです。
- ごみ全体を減らすのか、処理にかかる費用を減らすのか。
  分別してもごみの量は変わらず、リサイクルする事で費用がかかるのではないかと思う。分別する事で燃えるごみの量を減らす事ができ、リサイクルする方が費用を抑えられるなら理解できる。
- ごみの量について周辺地域との比較が知りたかった。
- 私は主婦なので毎日台所に立ってます。
  生ごみは毎日出るものです。その生ごみの 80%が水分と説明をきいて、今日から気を付けないと、と反省しました。

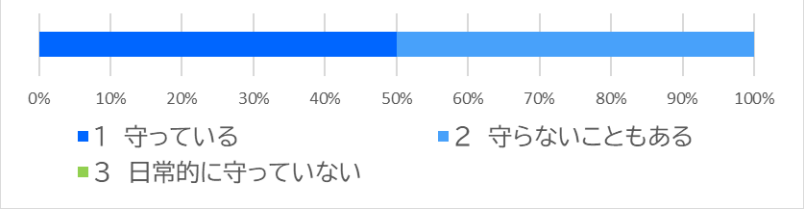
(3)ごみの分け方は知っていましたか。《回答 20 件》

回答	件数	割合
1 知っていた	17	(85%)
2 知らなかった	3	(15%)
合計	20 件	



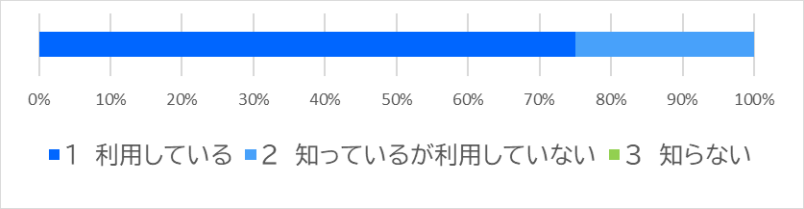
(4)分け方のルールを守っていますか。《回答 20 件》

回答	件数	割合
1 守っている	10	(50%)
2 守らないこともある	10	(50%)
3 日常的に守っていない	0	(0%)
合計	20 件	



(5)地域の集積所を利用していますか。《回答 20 件》

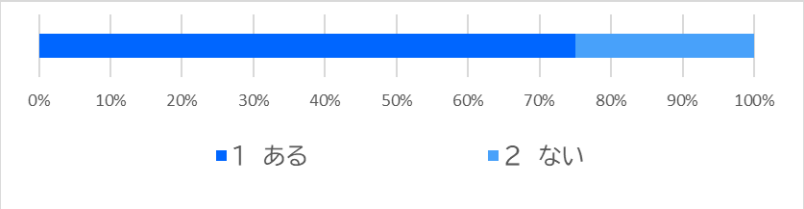
回答	件数	割合
1 利用している	15	(75%)
2 知っているが利用していない	5	(25%)
3 知らない	0	(0%)
合計	20 件	



4. あなたの身の回りのごみ事情について教えてください。

(1)ごみの削減のために自分や家族で気をつけていることや、削減に向けて行っていることはありますか。《回答 20 件》

回答	件数	割合
1 ある	15	(75%)
2 ない	5	(25%)
合計	20 件	



(2)「ある」と答えた方は気をつけている・取り組んでいる内容を記入してください。《回答 15 件》

- 雑紙やダンボール・衣類等はしっかりと分けて毎週出すようにしている。
- 生ごみは土にうめる、紙などは家で焼く。
- 燃えるごみとプラごみや資源ごみ(紙類)分別の徹底。
- 生ごみを可燃ごみとして出さない。ダンボールコンポストを利用している。
- 詰替がある物は、利用している。イオン等のリサイクル BOX を利用している(ペットボトル、アルミ缶)。

- 分別はきっちりと行い、家族にも言ってしてもらっている。
- ムダを出さない。マイバッグを持ち歩く（レジ袋を買わない）。
- 本や雑誌は電子書籍で購入している。コンビニ等の弁当やお惣菜ではなく、自炊して作る様にする。
- ・余計なものを買わない。
  ・エコバックを使う。
  ・分別の徹底。
- 食品ロスについて考えます。無駄を減らすこと。食品は、保存方法なども勉強し、冷凍保存も最近考えるようになりました。
- 地域の集積場以外にスーパー等にトレイ、段ボール、アルミ缶、ペットボトルを持っていっている。
- ペットボトルや缶は、洗って、ラベルをはがして出している。徹底したごみの分別をしていると思う。
- ペットボトルが多いので、酒やみりんは紙パックの物を使用した方が良いのかと思います。
  でも、紙パックもごみですね！
- 嫁に頼っているが分別は出来ていると思う。
- スーパーで定期購入をし、容器等は出来る限りリュースするようにしている。…程度しか出来ていません。

5. 次回以降の会議に向けての要望や、今日の感想などをご自由に記入してください。

《回答 15 件》

- 様々な生活スタイルの人々が集まっているので初めて知ることも多く、とても勉強になりました。
  自分の行動をかえりみる機会となりました。
  緊張したけれど、また出席していろんな意見を述べたり、聞いたりして行きたいです。
- 若い方の意見など聞けてよかった。
- 様々な世代、背景の人の意見を聞けて面白かった。
- コミュニティーでごみを減らす、具体的な方法が思いつきません。ヒントとなる事例などがあったら教えていただきたいです。
  行政として取り組んでいる事で、各個人が協力しやすい事などありましたら教えていただきたいです。
- 今までごみの分別方法など気にしていなかったけど、これからはやっていきたいなと思いました。
- 委員の対話する時間を少し入れてほしい。
- ごみ問題は大きく、広い問題だと思います。
- 3R の前部分、なぜ分別が必要なのか、リサイクル処理する事で、通常処理とどの程度費用対効果があるのかを知りたいです。
- 参加できて良かったです、次回もよろしくお願いします。

- 参加できることに感謝です。
- 今回参加でき、いろんな方の意見を聞くことができ、いろんな考え方もあり勉強になった。ごみについて、まずは私からできることをはじめたいと改めて感じた。
- ごみの問題は、簡単のようで難しい。
- 最後の方にもありました「なぜごみを出したらいけないのか」を聞いてみたいです。
- ごみを減らす事は分別方法が一番良いと思うが、分けたごみを出す時間、場所を広げてやればリサイクルへ、となると思う。
- ごみを減らす、分別する目的は、”R”出来ないごみを減らすため、ということでしょうか？
  だとしたら、個々の努力できることと、数十年後を見越した計画と、どちらも考えていかなければいけないなと思い、 また、次回までの課題に取り組もうと思いました。 ありがとうございました。

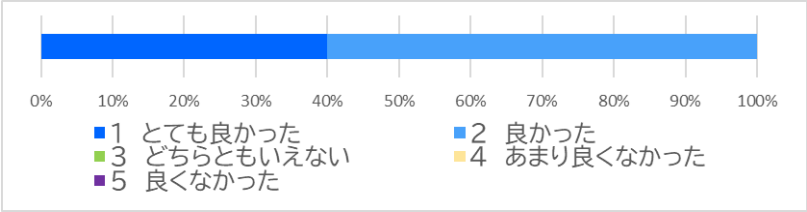
大刀洗町自分ごと化会議 第2回アンケート結果

2021年12月19日実施分

回答結果 ： 参加者 16人 回答者 15人（回答率 93.7%）

1. 第2回自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。《回答15件》

回答	件数	割合
1 とても良かった	6	（40%）
2 良かった	9	（60%）
3 どちらともいえない	0	（0%）
4 あまり良くなかった	0	（0%）
5 良くなかった	0	（0%）
合計	15 件	



▼その理由《回答13件》

1 とても良かった

- グループごとで話しやすかった。
- すごく勉強になりました。
- 前回よりも委員さんたちとの意見交換がたくさんできて、新しい発見がたくさんありました。知る機会を設けていただいてありがとうございました。
- いろんな意見がきけたのが良かった。
- 意見を聞くことができ、発見につながったし、今後のごみに対する気持ちも変わったと思う。
- 知らないことを知れた。

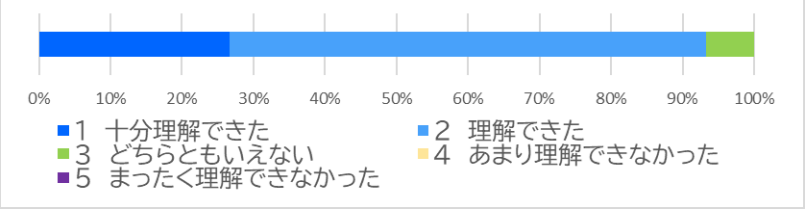
2 良かった

- 様々な世代の方と話ができてよかったです。
- ゴミについて色々な事を考えた。
- 3R＋C について話し合い、ゴミを減らすことの大事さを感じさせられた。
- テーマが前回より具体的になり、考える内容を整理できた。
- 様々な意見・考えを聞くことができたから。
- 普段あまり意識していなかったゴミについて、立場の違う方々の色々な意見を聞く事ができて、有意義だった。
- 他の人の意見が聞けてよかった。

2. 町から「なぜごみを減らさなければいけないのか」に関する説明がありました。このことについてお答えください。

（1）町からの説明内容は理解できましたか。《回答15件》

回答	件数	割合
1 十分理解できた	4	（27%）
2 理解できた	10	（67%）
3 どちらともいえない	1	（7%）
4 あまり理解できなかった	0	（0%）
5 まったく理解できなかった	0	（0%）
合計	15 件	



（2）その理由や、ご意見・ご感想があれば自由に記入してください。《回答4件》

1 十分理解できた

- 今まで考えたことがなかったので。
- 地球温暖化について、話があってよかった。

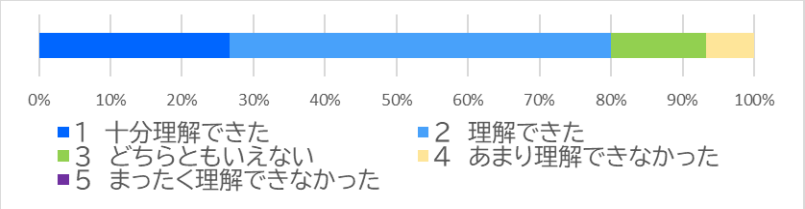
2 理解できた

- ゴミが増えると金がかかる、環境を悪くする
- 大項目での理解は出来たが、サンポートのコストがかかると、将来的に住民税がどれくらい上がるか等、具体的に分かると良かった。

3. 話題提供者から3R＋Cに関する話題提供「ゴミの減量にむけた地域や民間の取組み」がありました。このことについてお答えください。

（1）話題提供内容は理解できましたか。《回答15件》

回答	件数	割合
1 十分理解できた	4	（27%）
2 理解できた	8	（53%）
3 どちらともいえない	2	（13%）
4 あまり理解できなかった	1	（7%）
5 まったく理解できなかった	0	（0%）
合計	15 件	



（2）その理由や、ご意見・ご感想を自由に記入してください。《回答5件》

1 十分理解できた

- 自分だけじゃ考えなかった事がたくさん分かった。

- 3R だけでなく＋C の重要性をもとに。また色々考えていきたい。
- コミュニティーの大切さが伝わった。

3　どちらともいえない

- どんな効果があるか知りたかったです。

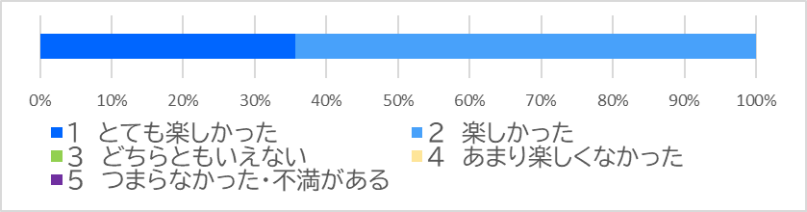
4　あまり理解できなかった

- スマートコミュニティバイオガス装置がどの様な効果があるか、生活にどう良い影響があるか等が、あまり理解できなかった。

4. グループワークの印象についてお答えください。

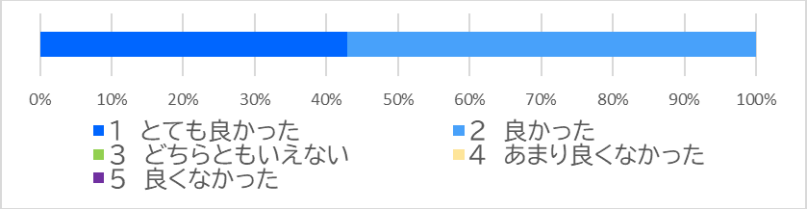
(1)グループワークはいかがでしたか。《回答14件》

回答	件数	割合
1　とても楽しかった	5	(36%)
2　楽しかった	9	(64%)
3　どちらともいえない	0	(0%)
4　あまり楽しくなかった	0	(0%)
5　つまらなかった･不満がある	0	(0%)
合計	14 件	



(2)進行役の進行はいかがでしたか。《回答14件》

回答	件数	割合
1　とても良かった	6	(43%)
2　良かった	8	(57%)
3　どちらともいえない	0	(0%)
4　あまり良くなかった	0	(0%)
5　良くなかった	0	(0%)
合計	14 件	



(3)グループワークに関するご意見･ご感想や、特に印象に残ったことなど、自由に記入してください。《回答13件》

1　とても楽しかった

- いろんな意見が出て、盛り上がってよかったです。ゴミについて、それぞれ考えを思っていることがよかったです。
- 前回より発言しやすかったです。
- 自分と違う世代の方の意見が聞けて、自分とはまた違った考えや、逆に「そうそう！」と同調する考えもあり、とても有意議な時間でした。
  発言しやすいよう、進行役の入江さんの気遣いも、かなりありがたかったです。

- くじ引きでグループ分けしたけれど、性別が一緒だったりの班もあったのでくじ引きのやり方ももう一工夫あるといいかと思います。
- クラフト紙を用いて、意見を聞いてからメモの様に使用したり、自分の意見を書く等、意見のまとまりにつながり、とても良かったと思う。
  日頃、ごみについてあまり考えることはなかったが、他の人の意見を聞くことにより、もっと自分でできること、家族でできること、コミュニティーでできること…を考えるきっかけとなり、参加できてよかったと思う。他の方の意見を今後につなげていきたいと思う。
- 様々な年代、家族形態の方の意見が面白く、自分の知識を広げることができた。

2 楽しかった

- 参加者の皆様の色々な意見を聴きとり、今後の取り組みを考えてみます。
- グループの方が話しやすい
- 色んな世代や生活環境の違う人々の集まりで、自分が知らない知識等が学べた。少人数の為、意見が出やすかった。
- 役場の方のサポートでリラックスして意見が出せた
- 自分の考えを言い過ぎるので反省しています。
- 皆さん良くゴミ対策されていると思いました。
- 全部まわれる様にしたら、もっと多くの意見が聞けたと思う。

5. 次回以降の会議に向けての要望や、今日の感想などを自由に記入してください。

《回答2件》

- グループワークの方が、意見が多いと思います。
- 大刀洗も人口が増え、他の地域から来られる方も増えている事から、今までの田舎の考え方だけでは難しいなと感じた。

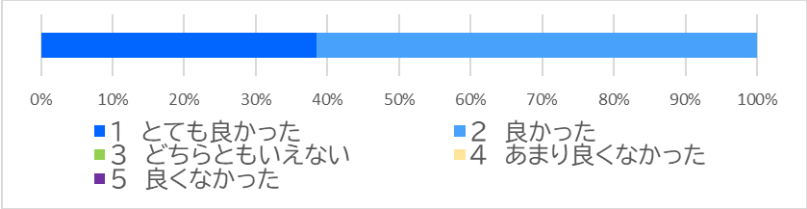
大刀洗町自分ごと化会議 第3回アンケート結果

2022年1月16日実施分

回答結果 ： 参加者 13人 回答者 13人（回答率 100%）

1. 第3回自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。《回答13件》

回答	件数	割合
1 とても良かった	5	（38%）
2 良かった	8	（62%）
3 どちらともいえない	0	（0%）
4 あまり良くなかった	0	（0%）
5 良くなかった	0	（0%）
合計	13 件	



▼その理由《回答10件》

1 とても良かった

- 自分が知らなかったことをたくさん教えてもらったり、知ることができて、意見交換（コミュニティ）の大切さを実感した。
- いろいろな意見が聞くことができ、学べた。
- 1回、2回、3回と会を重ねるにつれ、より具体性をもった議論、意見を聴くことができました。
- ゴミ減少の様々なアイデアが出ていて自分だけでは無かった発想を聞くことができた。また、その意見から自分の中で連想することができた。

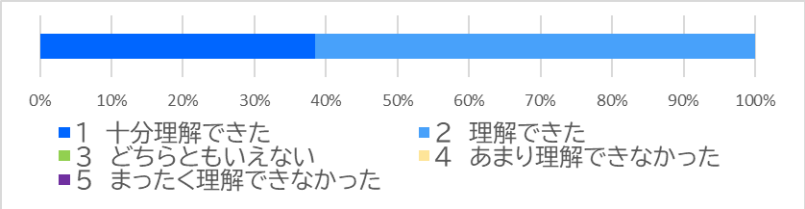
2 良かった

- いつもとても勉強になります。今とり組まれている処理機が多くの地域で実現できるといいと思います。
- 第2回、第3回のテーマの違いがもっと分かりやすいと良い。同じような話を何度もしているような感じがした。
- グループの中でコミュニケーションがとれて楽しかった。
- ゴミの意識が高まった。ゴミの問題を考え人とのコミュニティの場がつくれるといいなと思う。
- 様々な考えを聞くことができたから。
- 前回と違うメンバーで、貴重な意見を聞くことができた。

2. ごみ減量の社会実験に関する説明・話題提供がありました。このことについてお答えください。

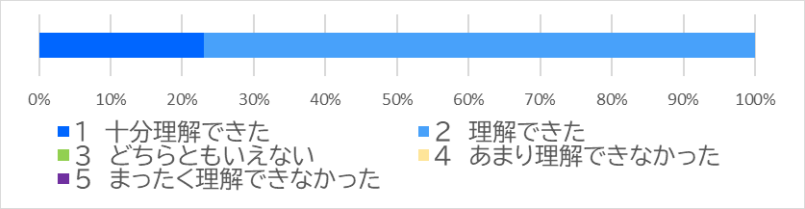
（1）町からの説明内容は理解できましたか。《回答13件》

回答	件数	割合
1　十分理解できた	5	（38%）
2　理解できた	8	（62%）
3　どちらともいえない	0	（0%）
4　あまり理解できなかった	0	（0%）
5　まったく理解できなかった	0	（0%）
合計	13 件	



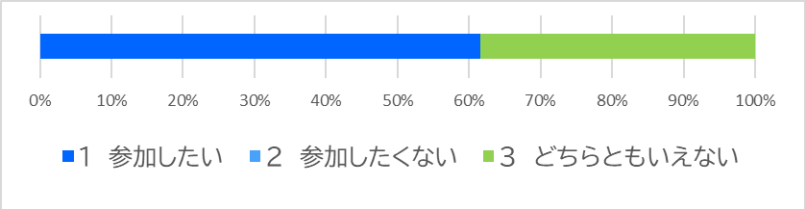
（2）話題提供内容は理解できましたか。《回答13件》

回答	件数	割合
1　十分理解できた	3	（23%）
2　理解できた	10	（77%）
3　どちらともいえない	0	（0%）
4　あまり理解できなかった	0	（0%）
5　まったく理解できなかった	0	（0%）
合計	13 件	



（3）話題提供のあった社会実験について、自分も参加してみたいですか。《回答13件》

回答	件数	割合
1　参加したい	8	（62%）
2　参加したくない	0	（0%）
3　どちらともいえない	5	（38%）
合計	13 件	



（4）説明内容、話題提供に関するご意見・ご感想を自由に記入してください。

《回答7件》

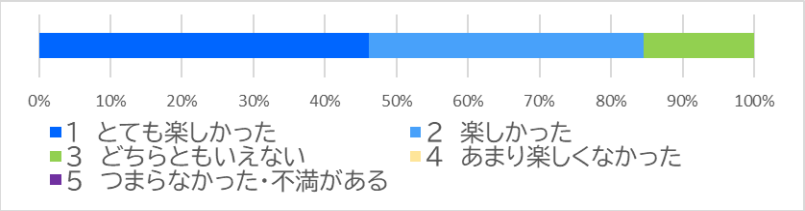
- ぜひ見に行きたいと思った。
- 本郷校区での取り組みを聞けて良かった。うらやましいと思った。我が町で実施され始めたことで、よりゴミ問題が身近になった。自分の校区でもぜひ取り組んでほしいと思った。
- 社会実験の話を前回の会議で聞いたために、すぐに形になっていたことがすごい!!!と思った。本郷ステーション行ってみたいと思った。
- 時間・機会があったら参加、見学してみたい。
- ステーションが自宅からどれくらいの距離のところにあるかで参加できる、できないが変わるかと思います。

- ゴミ分別に対して意識が高い地区で社会実験をしても、いいデータしか出てこないのではないか。あえてゴミ分別に対して意識が低い地区でもやってみて問題点をみいだしていくのもあり。
- 子どもの頃から教育が必要との意見があったが、もっと大切なのは大人の教育であることを感じた。

3. グループワークの印象についてお答えください。

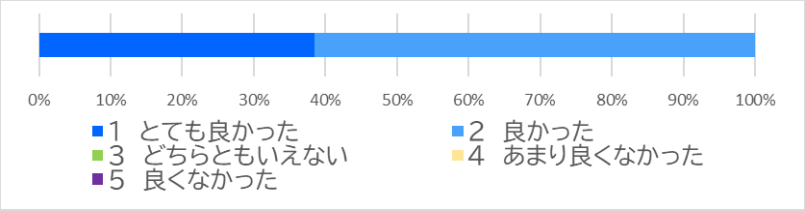
(1)グループワークはいかがでしたか。《回答13件》

回答	件数	割合
1 とても楽しかった	6	(46%)
2 楽しかった	5	(38%)
3 どちらともいえない	2	(15%)
4 あまり楽しくなかった	0	(0%)
5 つまらなかった・不満がある	0	(0%)
合計	13 件	



(2)進行役の進行はいかがでしたか。《回答13件》

回答	件数	割合
1 とても良かった	5	(38%)
2 良かった	8	(62%)
3 どちらともいえない	0	(0%)
4 あまり良くなかった	0	(0%)
5 良くなかった	0	(0%)
合計	13 件	



(3)グループワークに関するご意見・ご感想や、特に印象に残ったことなど、自由に記入してください。《回答13件》

1 とても楽しかった

- ごみの減量の話からいろいろと聞くことができ、学び多かったです。ありがとうございました。コミュニティですね。
- グループワークは良かったと思う。
- それぞれ意見がたくさん出てよかったです。
- 皆の意見を聞くことは、発想が色々と広がって良かった。
- 今回のような形が良いです。

2 楽しかった

- マスクをつけてるからか、声(意見)が聞き取りづらいです。

- 各グループ、視点が違う意見が聴けて良かったです。テーマ別にグループを再編成する事で、意見が多様性を持って出ていました。

3　どちらともいえない

- 欠席者が重なったようで、人数が少なかった。
- こんな場所でなかなか意見が言えず何の役にも立ちません、すみません。この会議に参加できたことで自分自身とても勉強させて頂きます。たくさんの人と話し、大刀洗のことを知ってもらえるといいと思います。

5. 次回の会議に向けての要望や、今日の感想などを自由に記入してください。《回答4件》

- ゴミを自分で出す事がメインとなっていますが、自分で出せない人、例えば車がない、遠方の人、高齢者等、自分でゴミを出せない人達の＋Cも考えないといけないと思いました。
- コロナ感染が心配です。なるべく参加したいと思います。
- 委員よりも、ギャラリーの方が多くなってますね…。
- コミュニティを育てるのは実際には非常に難しいと思う。具体策が導かれると良いなと期待します。経済で動いている社会なので、ボランティアといっても無償では難しいと思うのでお金を生む3R でないといけないと思います。

大刀洗町自分ごと化会議 第4回アンケート結果

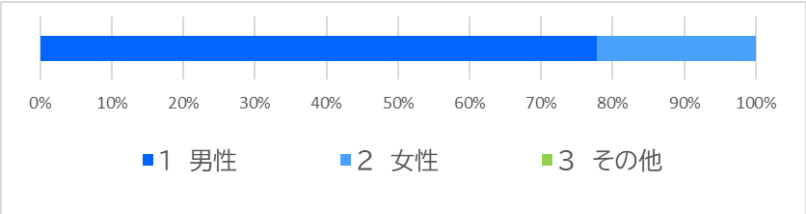
2022年2月19日実施分

回答結果 ： 参加者 9人 回答者 9人(回答率 100%)

属性情報《回答9件》

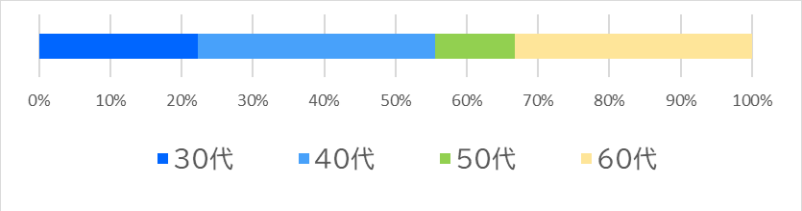
(1)性別

回答	件数	割合
1 男性	7	(78%)
2 女性	2	(22%)
3 その他	0	(0%)
合計	9 件	



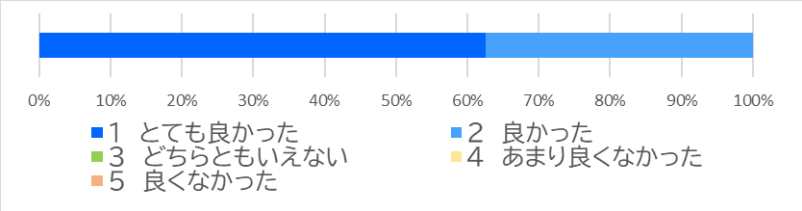
(2)年齢

回答	件数	割合
10 代	0	(0%)
20 代	0	(0%)
30 代	2	(22%)
40 代	3	(33%)
50 代	1	(11%)
60 代	3	(33%)
70 代	0	(0%)
80 代	0	(0%)
合計	9 件	



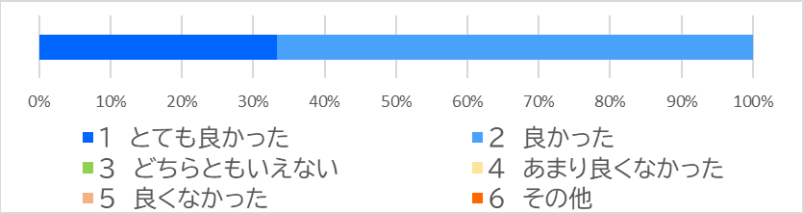
1. 第4回自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 とても良かった	5	(63%)
2 良かった	3	(38%)
3 どちらともいえない	0	(0%)
4 あまり良くなかった	0	(0%)
5 良くなかった	0	(0%)
合計	8 件	



2. 今回のテーマ「ごみを減らすために、わたしにできること」は、住民が考える内容として、どう思いますか。《回答9件》

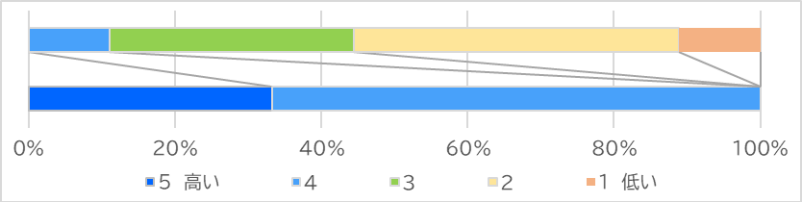
回答	件数	割合
1 とても良かった	3	(33%)
2 良かった	6	(67%)
3 どちらともいえない	0	(0%)
4 あまり良くなかった	0	(0%)
5 良くなかった	0	(0%)
6 その他	0	(0%)
合計	9 件	



3. 自分ごと化会議に参加した前後で、大刀洗町のごみ問題に関する意識や行動に変化はありましたか。以下の項目についてそれぞれ当てはまる欄に○をご記入ください。

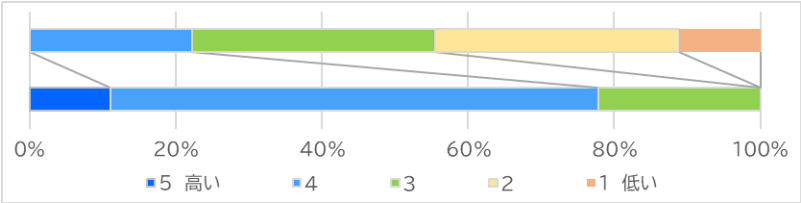
(1)ごみ問題への関心《回答9件》

回答	参加前	参加後
5 高い	0 (0%)	3 (33%)
4	1 (11%)	6 (67%)
3	3 (33%)	0 (0%)
2	4 (44%)	0 (0%)
1 低い	1 (11%)	0 (0%)
合計	9 件	9 件



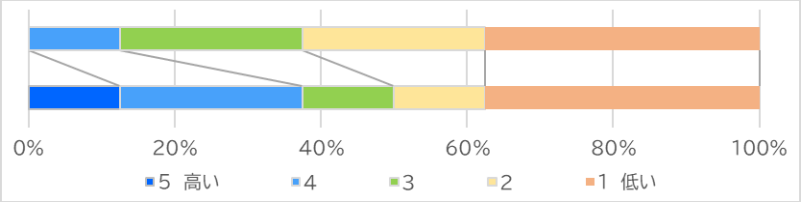
(2)ごみ分別の徹底度《回答9件》

回答	参加前	参加後
5 高い	0 (0%)	1 (11%)
4	2 (22%)	6 (67%)
3	3 (33%)	2 (22%)
2	3 (33%)	0 (0%)
1 低い	1 (11%)	0 (0%)
合計	9 件	9 件



（3）ごみ分別や削減に関わる地域の活動への参加頻度《回答8件》

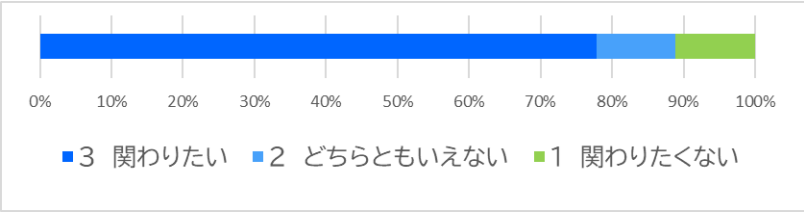
回答	参加前	参加後
5 高い	0 （0%）	1 （13%）
4	1 （13%）	2 （25%）
3	2 （25%）	1 （13%）
2	2 （25%）	1 （13%）
1 低い	3 （38%）	3 （38%）
合計	8 件	8 件



4. 今後、大刀洗町のごみ問題にどのように関わりたいと考えていますか。以下の項目についてそれぞれ当てはまる欄に〇をご記入ください。

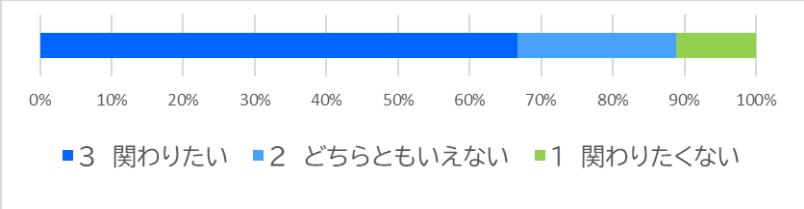
（1）ごみ問題への関心《回答9件》

回答	件数	割合
3 関わりたい	7	（78%）
2 どちらともいえない	1	（11%）
1 関わりたくない	1	（11%）
合計	9 件	



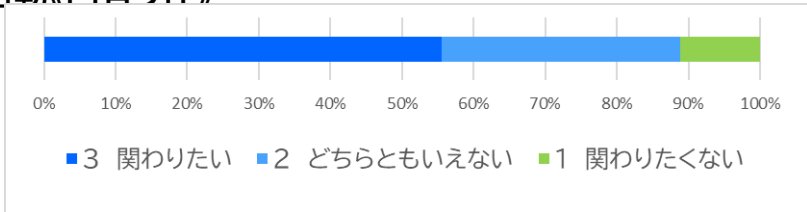
（2）ごみ問題に関わる行政活動についての情報収集《回答9件》

回答	件数	割合
3 関わりたい	6	（67%）
2 どちらともいえない	2	（22%）
1 関わりたくない	1	（11%）
合計	9 件	



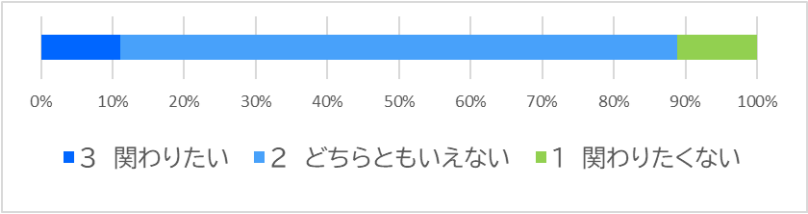
（3）行政区等でのごみ分別・削減活動《回答9件》

回答	件数	割合
3 関わりたい	5	（56%）
2 どちらともいえない	3	（33%）
1 関わりたくない	1	（11%）
合計	9 件	



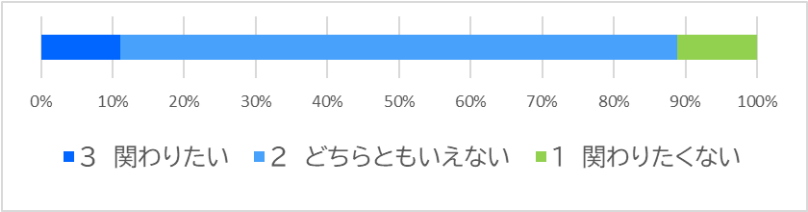
(4)MEGURU STATION の運営《回答9件》

回答	件数	割合
3 関わりたい	1	(11%)
2 どちらともいえない	7	(78%)
1 関わりたくない	1	(11%)
合計	9 件	



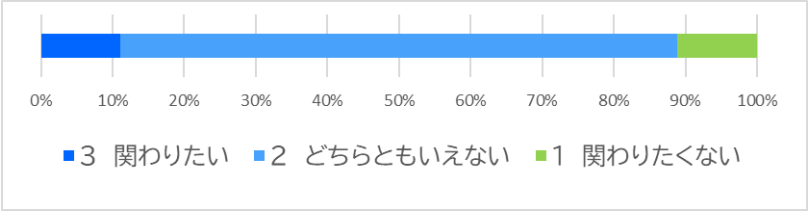
(5)市民団体や NPO 団体のごみに関わる活動《回答9件》

回答	件数	割合
3 関わりたい	1	(11%)
2 どちらともいえない	7	(78%)
1 関わりたくない	1	(11%)
合計	9 件	



(6)ごみ問題に関わる政策提言活動《回答9件》

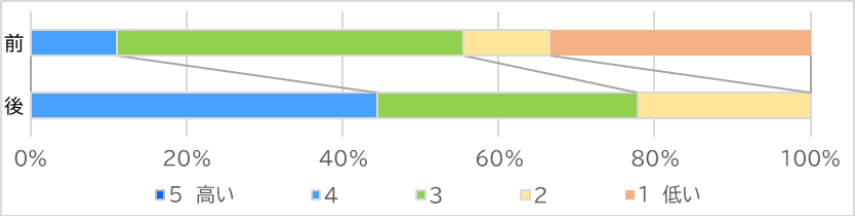
回答	件数	割合
3 関わりたい	2	(22%)
2 どちらともいえない	6	(67%)
1 関わりたくない	1	(11%)
合計	9 件	



5. 自分ごと化会議に参加した前後で、あなたの税金や行政・議会への関心や地域づくりに関わる頻度など変化はありましたか。以下の項目についてそれぞれ当てはまる欄に○をご記入ください。

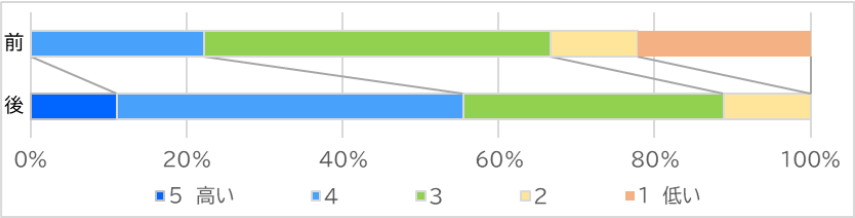
(1)税金の使い方への関心《回答9件》

回答	参加前	参加後
5 高い	0 (0%)	0 (0%)
4	1 (11%)	4 (44%)
3	4 (44%)	3 (33%)
2	1 (11%)	2 (22%)
1 低い	3 (33%)	0 (0%)
合計	9 件	9 件



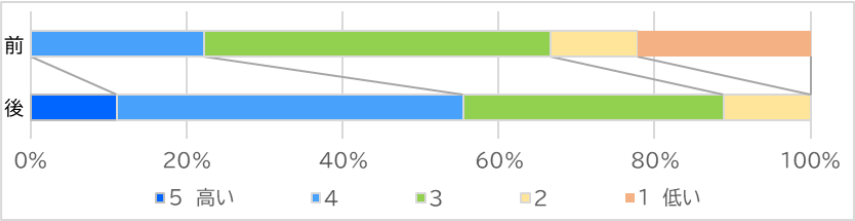
（2）行政や議会の情報への関心（広報紙・HP や議会の傍聴等）《回答9件》

回答	参加前	参加後
5 高い	0 （0%）	1 （11%）
4	2 （22%）	4 （44%）
3	4 （44%）	3 （33%）
2	1 （11%）	1 （11%）
1 低い	2 （22%）	0 （0%）
合計	9 件	9 件



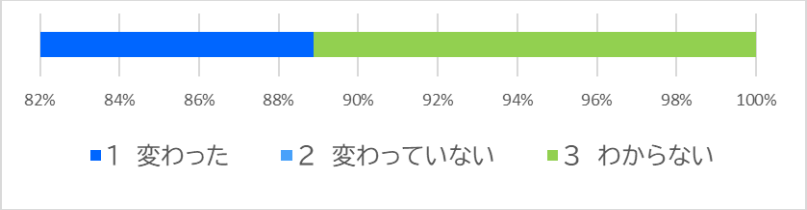
（3）自治会、ボランティア等地域づくりに関わる集まりに参加する頻度《回答9件》

回答	参加前	参加後
5 高い	0 （0%）	2 （22%）
4	1 （11%）	3 （33%）
3	5 （56%）	1 （11%）
2	1 （11%）	2 （22%）
1 低い	2 （22%）	0 （0%）
合計	9 件	8 件



6. 自分ごと化会議に参加したことで、意識に変化はありましたか。《回答9件》

回答	件数	割合
1 変わった	8	（89%）
2 変わっていない	0	（0%）
3 わからない	1	（11%）
合計	9 件	

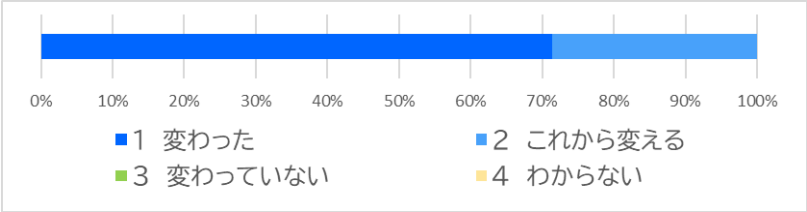


▼具体的に変わった点《回答4件》

- 可能な限り分別する。
  コミュニティが活きる将来、そしてその中に自分がいること。
- より自身の問題と考えるようになった。
- スーパーなど買い物へ行ったときに、回収しているものは何があるかを気にかけるようになった。
  家でごみを捨てるとき、資源ごみかどうか気にするようになった。
- 大刀洗町の課題、現状を知ることができた。

7. 自分ごと化会議に参加したことで、行動に変化がありましたか。《回答7件》

回答	件数	割合
1 変わった	5	(71%)
2 これから変える	2	(29%)
3 変わっていない	0	(0%)
4 わからない	0	(0%)
合計	7 件	

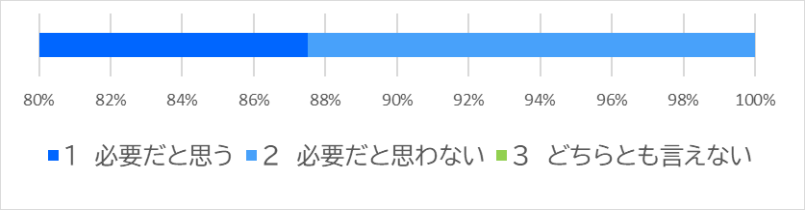


▼具体的に変わった(変える)点《回答6件》

- 多くのことに関心を持って、自分にできることを考える。
- 分別をより細かく考える。
- 生ごみの水切りを徹底する。トレイ、ペットボトル、プラスチック類など、資源ごみを燃えるごみの中に入れない。洗って回収所へ持っていく。
- 紙ごみの分別。町がやっていることに関心を持つ。
- ごみを出さないように考えるようになった。
- 3Rを意識して生活するようになった。

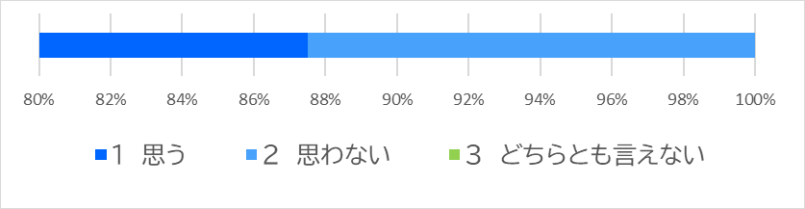
8. 今回の会議のように、無作為抽出の手法を使って議論していくやり方についてどう思いますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 必要だと思う	7	(88%)
2 必要だと思わない	1	(13%)
3 どちらとも言えない	0	(0%)
合計	8 件	



9. 今後、住民同士で、町の重要課題について議論・意見交換し、町へ改善提案できる場があれば参加したいと思いますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 思う	7	(88%)
2 思わない	1	(13%)
3 どちらとも言えない	0	(0%)
合計	8 件	

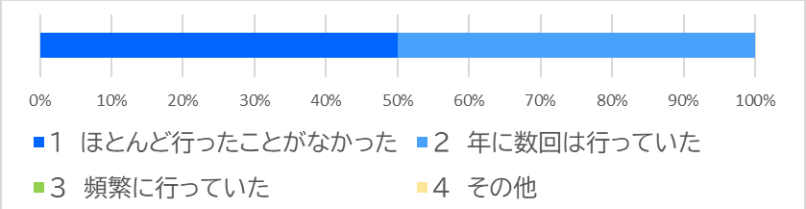


10. その他、全体を通じた感想や今後自分ごと化会議で議論してほしいテーマなどございましたら、ご記入ください。《回答5件》

- 防災・避難。
- ふるさと納税の使い道。
- ごみ問題とコミュニティに関する課題は、今回の4回の会議では解決する訳でもない。
  せめて方向性や、今後の展望くらいまではイメージできる程度のテーマだと良かったと思う。
- 最後にお話しいただいたように MEGURU STATION の話が多くなり、その他のアイディアを考えることが少なくなりました。
  それでも、多くの委員から様々な意見が出たので、その意見を大事にしたいと思います。
- 今回の自分ごと化会議に参加することで、大刀洗町に関心を持つことができ、色んな年代の方達と意見をしあう機会ができました。

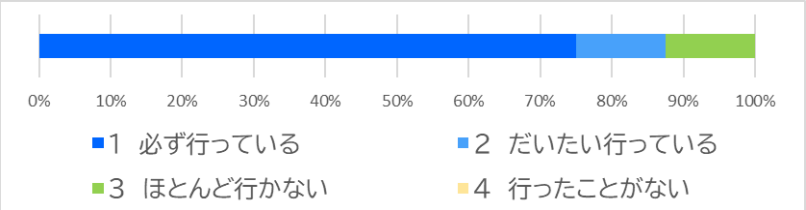
11. あなたは、自分ごと化会議に参加する以前に、町役場とどの程度の関わりがありましたか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 ほとんど行ったことがなかった	4	(50%)
2 年に数回は行っていた	4	(50%)
3 頻繁に行っていた	0	(0%)
4 その他	0	(0%)
合計	8 件	



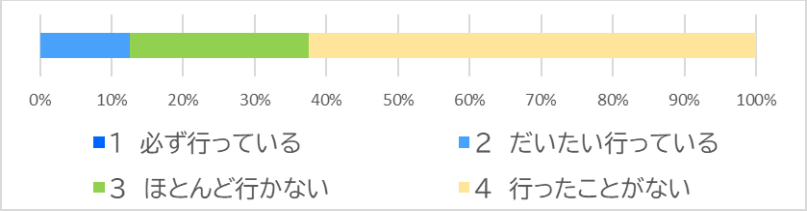
12. 選挙の投票に行きますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 必ず行っている	6	(75%)
2 だいたい行っている	1	(13%)
3 ほとんど行かない	1	(13%)
4 行ったことがない	0	(0%)
合計	8 件	



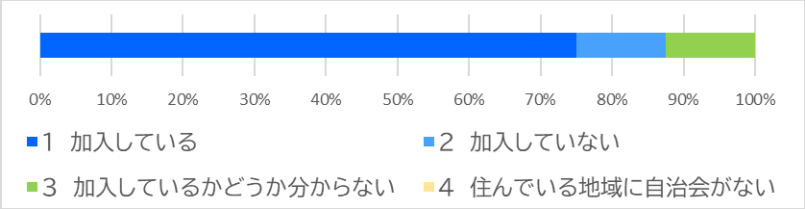
13. 議会の傍聴に行きますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 必ず行っている	0	(0%)
2 だいたい行っている	1	(13%)
3 ほとんど行かない	2	(25%)
4 行ったことがない	5	(63%)
合計	8 件	



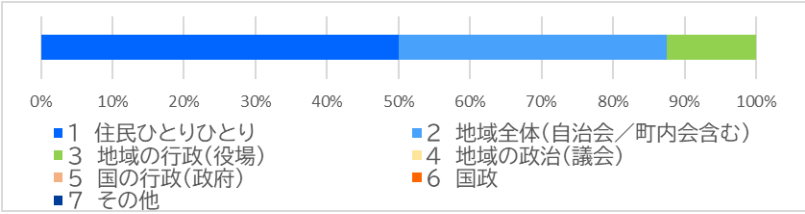
14. お住いの地域の自治会に加入していますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 加入している	6	(75%)
2 加入していない	1	(13%)
3 加入しているかどうか分からない	1	(13%)
4 住んでいる地域に自治会がない	0	(0%)
合計	8 件	



15. 大刀洗町をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。《回答8件》

回答	件数	割合
1 住民ひとりひとり	4	(50%)
2 地域全体(自治会／町内会含む)	3	(38%)
3 地域の行政(役場)	1	(13%)
4 地域の政治(議会)	0	(0%)
5 国の行政(政府)	0	(0%)
6 国政	0	(0%)
7 その他	0	(0%)
合計	8 件	



令和３年度大刀洗町自分ごと化会議 参加者

(写真：第４回大刀洗町自分ごと化会議)

▼委員

打越　静那	秋山　大輔	酒井　桂子	森　すま子
安丸　正弘	正木　真由美	伊藤　譲太郎	中垣　桂一郎
宮崎　誠	田中　志乃	原　久雄	田中　知佳
原　泰文	土山　美穂	高橋　栄子	藤岡　拓也
佐藤　哲郎	日野　初子	鮫島　健人	平田　美津子
三原　光正	堀内　由紀子	秋吉　寿奈子	柳　真子

▼コーディネーター

・荒井　英明　（構想日本　特別研究員／神奈川県内陸工業団地工業組合　事務局長）

▼ナビゲーター

【第２回】

・櫛田　豊久　（アミタホールディングス　経営戦略補佐　ＫＯＵプロジェクトマネージャー）

【第３回】

・廣木　俊二　（ふれあいセンター　センター長）

【第４回】

・吉川　昇　　（ふれあいセンターＭＥＧＵＲＵ　ＳＴＡＴＩＯＮボランティアスタッフ）